

# 感染経路、正しく理解を

私ごとですが、先日息子の幼稚園で餅つきがありました。休み明けに園児のインフルエンザ感染が突然広がりました。「やっぱり餅つきで感染拡大したんだ」と、母親たちは原因を餅つきと決めつけました。ノロであちこちの餅つきが中止されていたからでしょう。しかし、本当に餅に付着したインフルエンザウイルスで感染が拡大したのでしょうか？意外と誤解されているインフルエンザウイルスについて考えます。

■インフルエンザはほとんどが飛沫（または飛沫核）感染である

まず、インフルエンザの典型的な感染の場面を

想定してみます。インフルエンザを前に居たBさんが鼻で息を吸い込めば、ウイルスが鼻腔に侵入します。ウイルスがBさんの上気道（鼻腔・咽頭）の粘膜に付着したとき、粘膜が乾燥して免疫力が低下して

## 具体例で学ぶ 介護施設の 事故防止策



プロフィール

早稲田大学法学部卒業と同時に現あいおいニッセイ同和損害保険株式会社入社。2000年4月より介護・福祉施設の経営企画・リスクマネジメント企画立案に携わる。2006年7月より現株式会社インターリスク総研、2013年4月よりあいおいニッセイ同和損保、同年5月退社。「現場主義・実践本意」山田滋の安全な介護セミナー「事例から学ぶ管理者の事故対応」「事例から学ぶ原因分析と再発防止策」などセミナー講師承ります。詳しくはホームページ [anzen-kaigo.com](http://anzen-kaigo.com) で。

(株)安全な介護 山田滋代表

## 第122回 餅つきでインフルエンザ拡大？

いればウイルスが急激に増殖し、上気道が炎症を起こします。これで感染完了です。インフルエンザウイルスは消化器などからは侵入できません。

このように考えれば、発症者が比較的近くに居て直接ウイルスをもらわなければ感染しにくいと言えます。

ということは、園児の手に付着したインフルエンザウイルスが餅に付着し、これを食べた園児が感染することは絶対にあ

り得ないのです。インフルエンザウイルスは、手付着して5〜15分もすれば死滅（不活性化）しますから、手から餅に付着する可能性はほぼゼロです。仮に、他の原因で餅に付着しても、餅は高温で水分が多いのですぐに死滅しますし、食べ物に付着したウイルスが上気道の粘膜に届く確率も極めて低いからです。

イルスを手に付けて入所者に感染させる可能性は低いですから、残る可能性は介護職員自身が感染している状態で、自らのウイルスを入居者にうつすケースだけです。

■多くは介護職員が感染源である

感染することは絶対にあ

インフルエンザを発症しても出勤する職員はいませんが、ウイルスを入所者に感染させるのは、潜伏期間と治癒後に出勤したときということになります。では、潜伏期間や治癒後に感染させる可能性はどれくらいあるのでしょうか。

出しており、3日で治癒して出勤すれば2日間はウイルスを排出していることになりま

■特養の感染者はどこで感染したのか？

入所者に最も高い頻度で接触し外部のウイルスを直接もたらす可能性が高いのは、介護職員です。

大人の場合、感染後12時間経過時からウイルスの排出を始め、発症後5日後まで続くと言われています。すると、潜伏期間が2日の場合、36時間は自覚なくウイルスを排出

している家族などのうち

介護 Biz

しかも、介護職員が発症している家族などのうち